



Nurse Letter

2012 10

9月27日(木)に平成24年度看護研究発表会が開催されました

今年度は平日の勤務終了後にも関わらず、約90名の参加がありました。発表された4題の看護研究は、研究計画書の段階から愛媛大学の小岡亜希子先生にご指導いただいたものであり、その成果の発表に対して活発な質疑応答がなされました。参加者からは、「興味深いテーマであり、病棟でも取り組んでみたい」「質疑応答が活発で内容がよくわかった」「講評を聞くことで、より理解できた」など多くの意見をいただきました。今回発表された研究は、院外発表を目指して、現在調整中です。教育委員会においては、研究に対して適切な講評ができるように委員それぞれが学びを深めると共に、今後も教育委員会全体で取り組んでいきたいと思っております。

教育委員長 高橋 美保

看護学は、看護という実践の場を
対象としているため、実践の学問(実
践の科学)であるといわれています。
日々の看護実践の中で、小さな疑
問や興味を持つことは、とても大切な
ことです。研究を行うことで、自分た
ちの看護の質を高めていきましょう。

看護研究発表会を終えて

「糖尿病教育入院患者に対してセルフケア別 行動変容介入シートを用いて行った看護の効用」

南4 杉野 加代子

自己管理困難な糖尿病患者に対して、介入シートを用いて変化ステージを判断し心理的準備状態に応じた関わりを行いました。その関わりが、患者の自己管理意欲の向上に重要な援助方法である事を学ぶ事ができました。今後も患者の変化ステージに応じた関わりができるよう続けていきたいと思っております。

「看護師の転倒転落に関する意識改革を目指して ～ウォーキングカンファレンスを導入して～」

北6 齋藤 美代子

看護師の転倒転落に対する意識改革を目指して研究を行いました。この研究を通して、実際にベッドサイドに行き意見交換することや、家族に協力を得ることの大切さを学ぶことができました。今後もウォーキングカンファレンスを定着させ、患者が安全に入院生活をおくれる環境を提供していきたいです。

「A病院看護師の手術室イメージの変化と 院内留学の効果」

手術室 林 加菜

研究期間中は留学者が3名と少なかったのが残念ですが、院内留学前後で、手術室のイメージの変化、知識・技術の再確認に繋がったという結果がでました。手術室の事、また私たちが普段行っている周術看護について、一人でも多くの方に知っていただき、継続看護につなげていきたいと思っております。

「総合病院を分娩施設として選択する理由と 出産を終えての満足度の実態」

北4 道下 陽子

研究を行って、安全な分娩環境と接遇に対する満足度が高いという結果が出ました。しかし、外来で助産師が行っている保健指導やサービスに対する認知度が低く、今後は効果的な広報について検討し、利用者の増加をはかる事が課題です。

院外研修から

ケーススタディで磨く看護実践力 北5 篠原久江

看護実践力を磨くために、循環器系に焦点を当てた解剖生理と病態、問診と観察、情報の重要性、フィジカルアセスメントの実際などケーススタディで学ぶ事を目的に、研修に参加しました。

モニタリングの講義で、循環器は**心電図を読まなければ!**と思うほど**心電図に頼り過ぎている**点を指摘されました。心電図でわかること・心電図だけではわからないことを理解し、心電図を過信せず、自分の五感を磨いて観察する必要性を学びました。モニターの波形が変化したら、まず**患者の状態を観察する・波形をリコールして、変化の時期の情報をとる**・12誘導心電図でチェックする・検査データを再確認するなど、**フィジカルアセスメントを用いた幅広い視点が必要**です。このアセスメントは、患者急変時の簡潔明瞭な医師への状態報告にも有効です。

フィジカルアセスメントの演習では、事例を通して自覚症状を意図的に聴取する問診や聴診、触診、視診、循環状態の把握に必要なバイタルサインの情報を**根拠や看護理論と結びつけ、看護支援へと導く**一連の流れを学びました。看護ケアを行うにあたり、エビデンスや治療のガイドライン、疾患の分類を理解することで、かなり個別性のある内容に変わること気付かされました。日頃から情報収集とアセスメント能力を高め、質の高い看護支援に繋がたいと思っております。

今回の研修は苦手な分野でしたが、チャンスに変えようと臨み、研修に参加する前の自分とは確実に意識が変化しました。看護の質の向上には、このように即看護実践に結びつく研修の参加が有効と確信しました。みなさんも是非!! 頭をフル回転する研修に参加してみてください。

病棟トピックス～北5病棟～

最近「日中いつも眠い」「夜間の呼吸停止」「大きなイビキをかく」「起床時の頭痛やだるさ」このような症状はありませんか?

もしかしたら、それは**睡眠時無呼吸症候群(SAS: Sleep Apnea Syndrome)**かもしれません。北5病棟では1泊2日の入院で、SASの検査を行っています。SASと診断されると、CPAP治療を導入し睡眠中の呼吸改善を行います。質の良い睡眠は、**血圧を下げたり、心不全の悪化予防にもなります。**

気になる症状がある方は、気軽に循環器科へ相談してみてください。



パソコンのログアウトはできていますか? 意識しておこなっていきましょう。

